

防災対策意識に関する調査結果

「関東大震災100年」に際し、板硝子協会では「防災対策意識に関する調査」を17の項目で実施した結果、30代～60代男女の6割以上が『今年が関東大震災から100年であること』を「知らなかった」と回答した一方、「この機会に防災について考えたい」と回答した人は72.8%と、多くの方が防災対策意識に関心があることがわかる結果となりました。

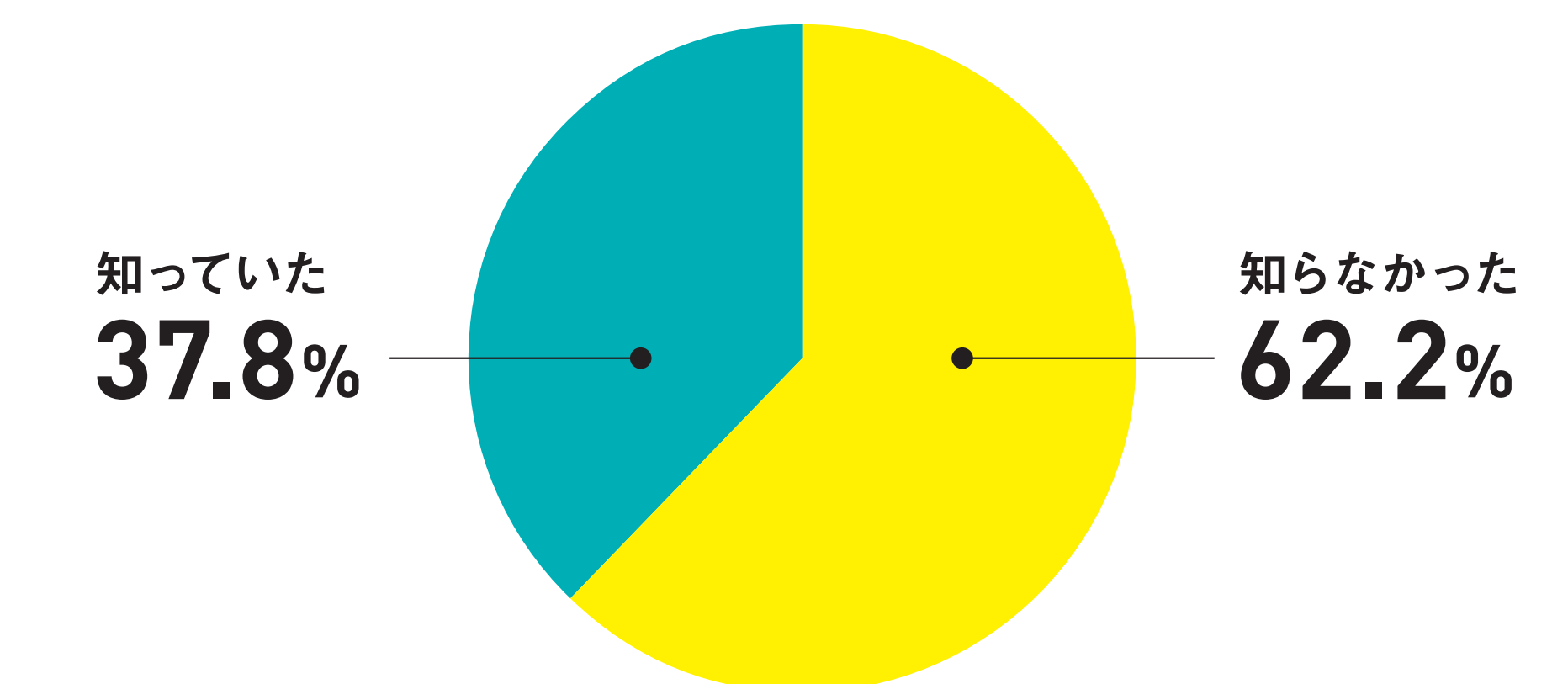
防災対策意識に関する調査概要

調査方法：インターネット（一般社団法人板硝子協会 調べ）

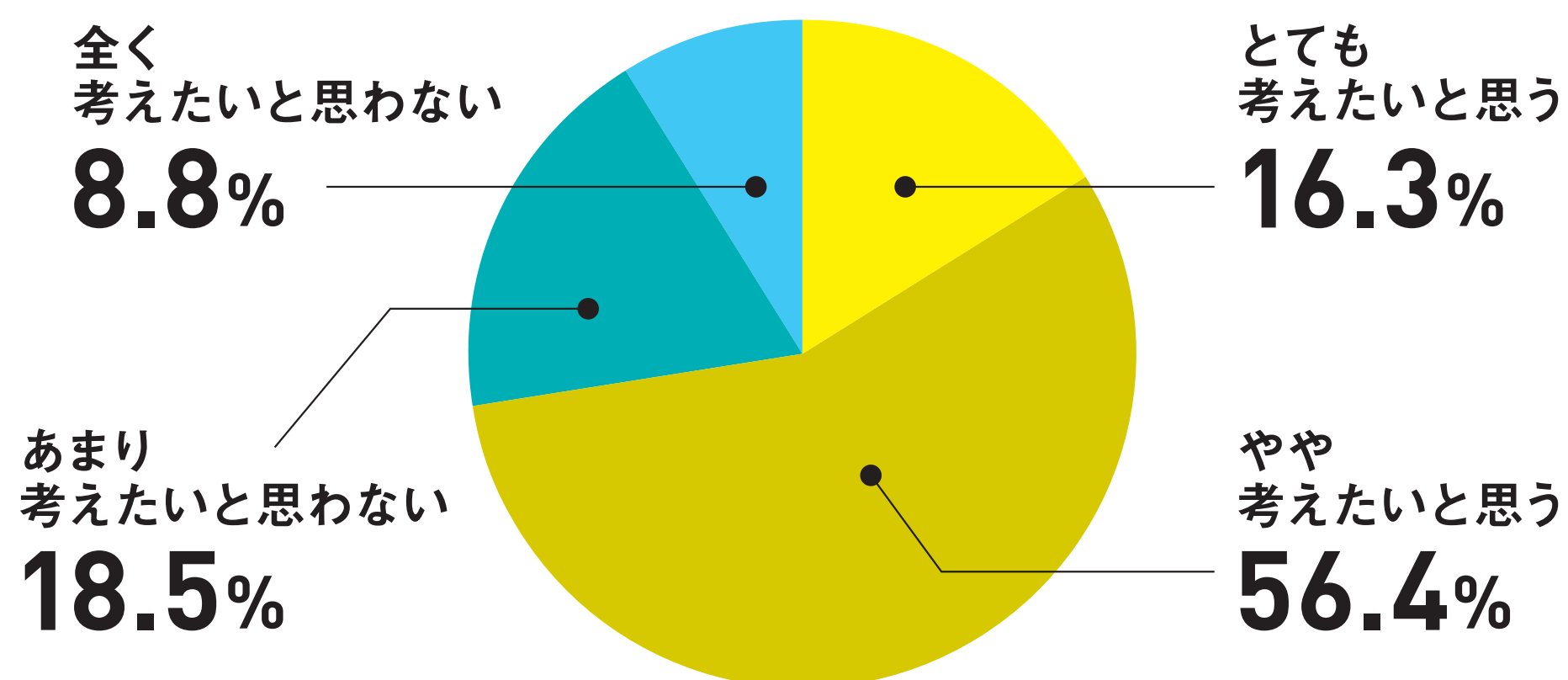
調査時期：2023年7月実施

調査対象：全国の30～60代男女、同居家族あり（配偶者＋子供）、持家（一戸建て、マンション）— 400人

Q1 令和5年で関東大震災から100年経過したことを知っていましたか？



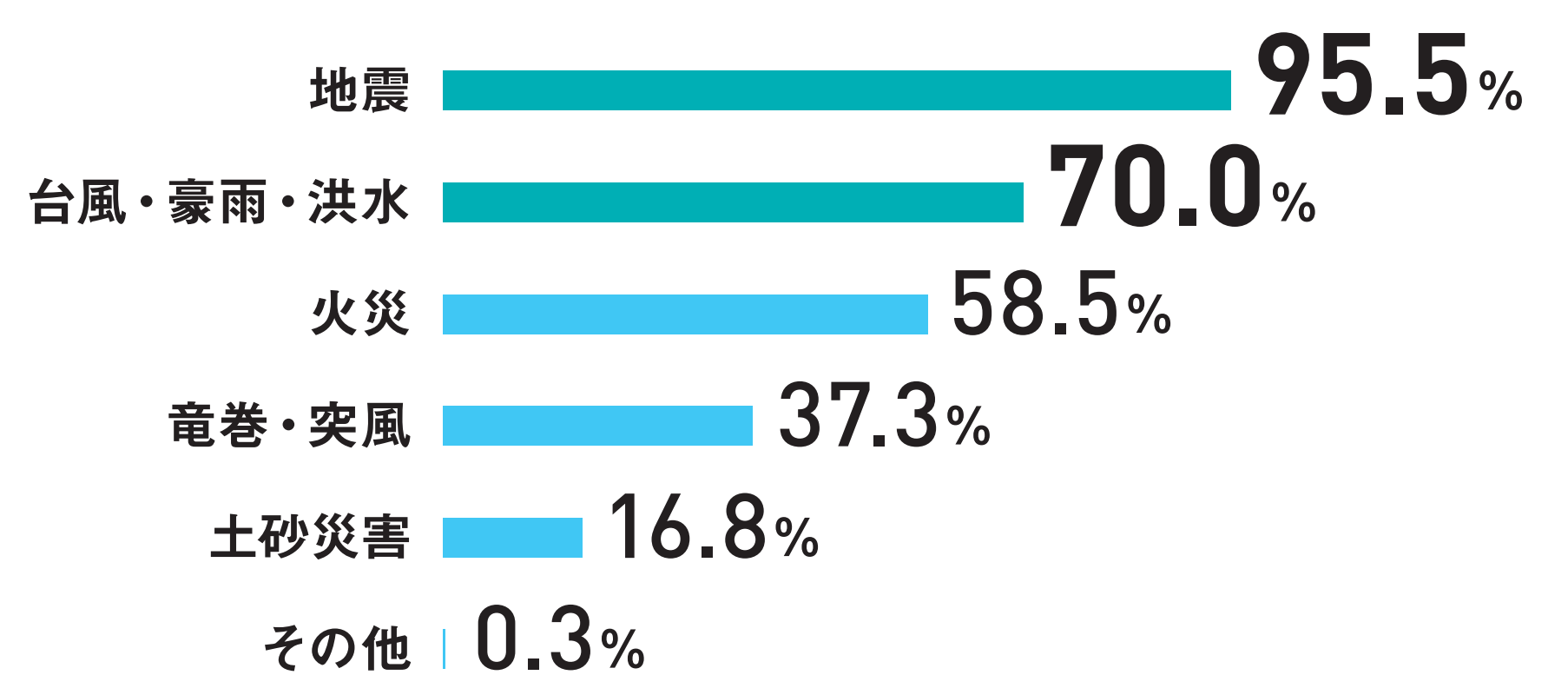
また関東大震災100年を機に災害について再度考えたいと思いますか？



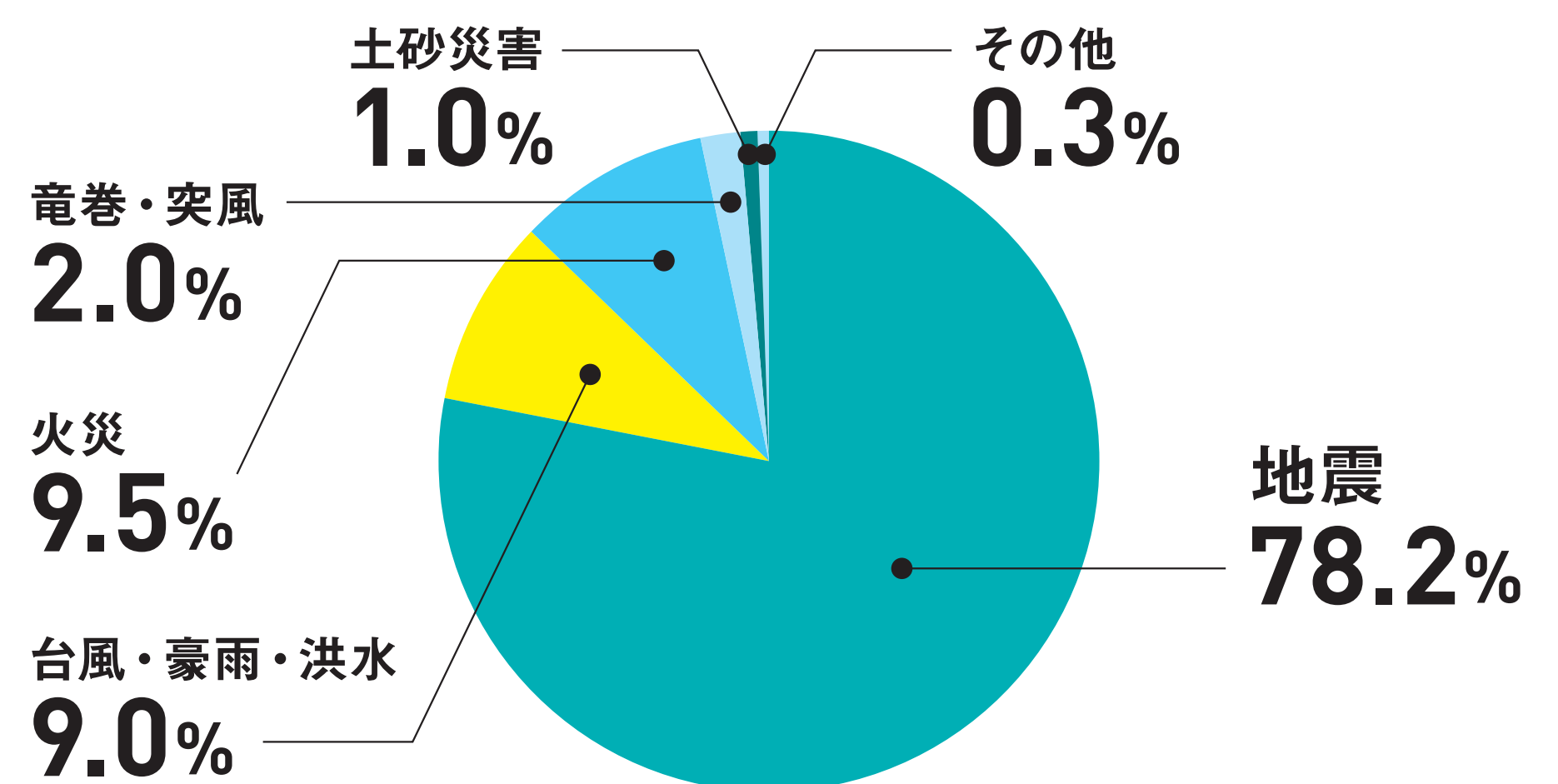
▶ 約6割が「関東大震災100年」を知らなかったと回答

令和5年で関東大震災から100年経過したことを「知らなかった」という方は全体の62.3%で、関東大震災100年に対する認知度が低い結果となりました。その一方で、関東大震災100年を機に災害について再度考えたいと思いますかという質問に対しては、7割以上の人は災害についてこの機会に考えたいと持っていることが明らかになりました。

Q2 あなたが身近で発生するリスクがあると感じる災害はどれですか？（複数回答）



また最も怖いと感じている災害はどれですか？



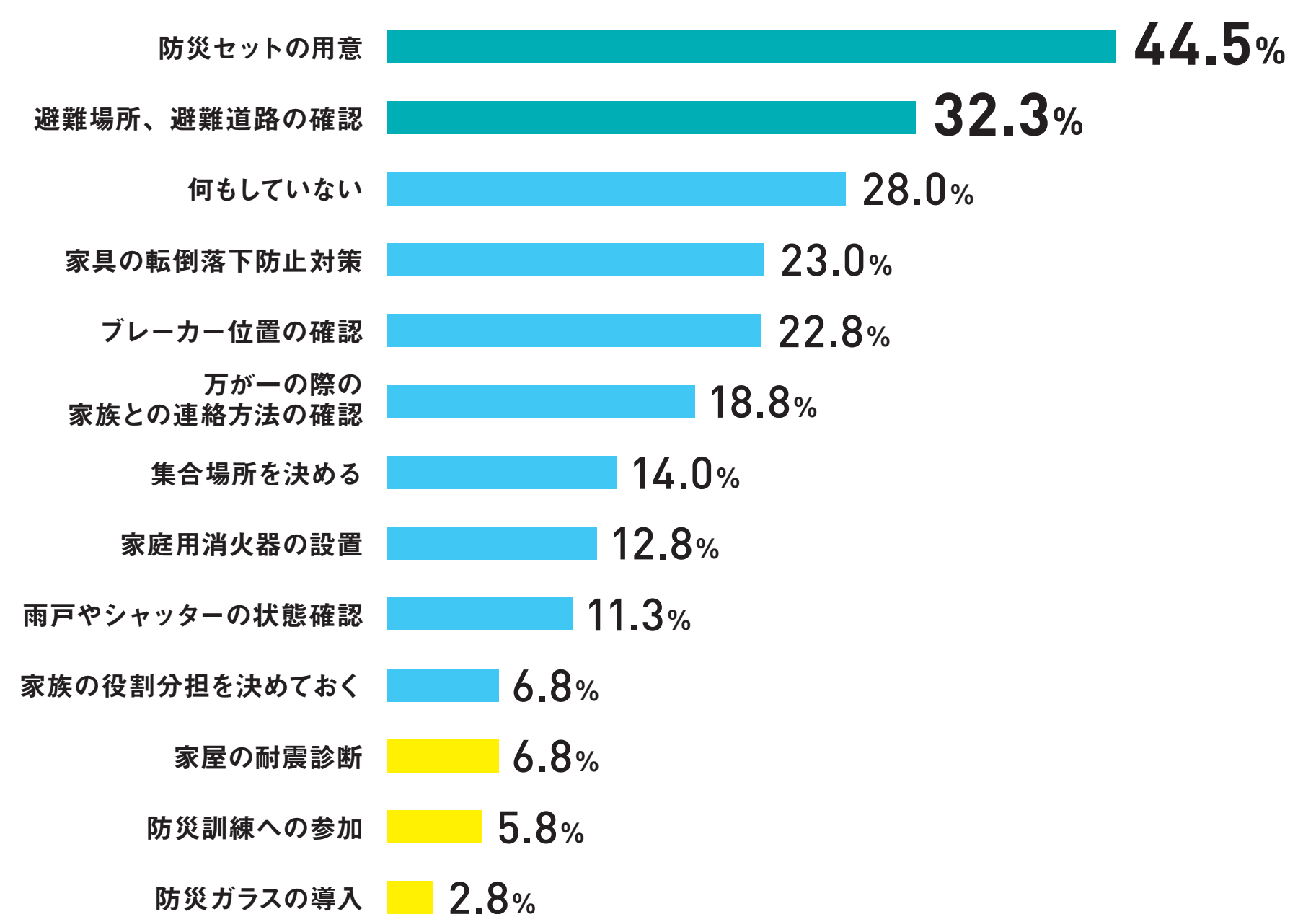
▶ 自分の身近で最も発生リスクが高いと感じている災害は「地震」、次に「台風」。

通常に暮らしている中で最も発生リスクが高いと感じている災害は地震、次いで高いのが台風でした。ここ数年の世界を取り巻く自然環境の変化によって、台風の発生する時期が早くなったり、規模も大型なものになったり、メディアでも台風被害が多く報道されるようになったことが背景にあると考えられます。

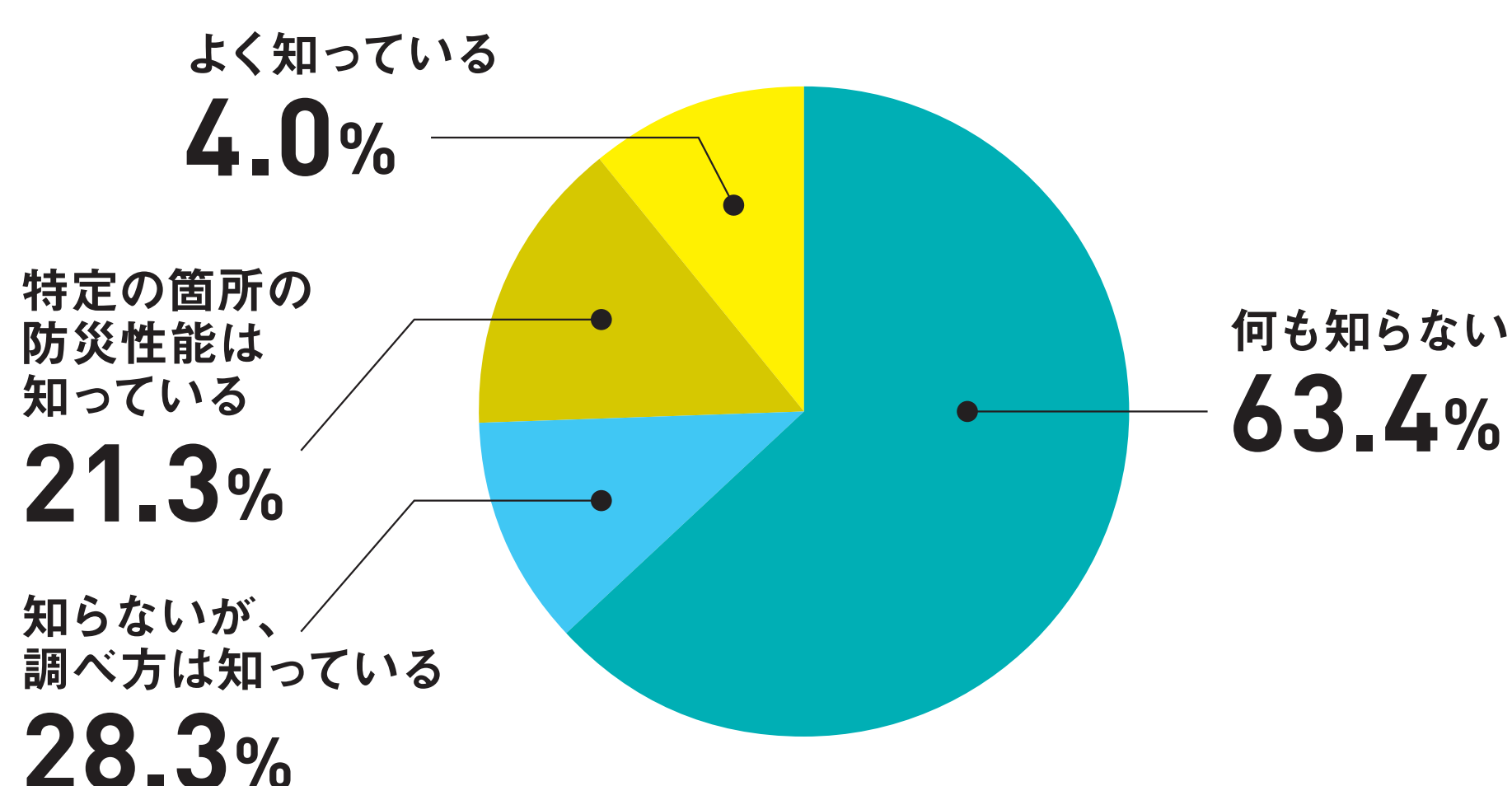
Q3 災害の種類には地震、台風、豪雨、洪水...等がありますが、あなたは現在どのような災害対策をしていますか。あてはまるものを全てお選び下さい。（複数回答）

▶ 災害対策は防災セットを用意するだけで十分!?

災害対策として4割以上の方が防災セットを準備しており、3割以上が避難経路の確認を行っています。これは災害発生時に対するの備えが重要、という傾向が読み取れ、一方で家屋の耐震診断6.8%、防犯ガラスの導入2.8%等、災害が起こった時に身を守る対策に対しては、まだ関心が低いという結果を得ました。



Q4 あなたは、現在お住まいのご自宅の防災性能をどの程度知っていますか？

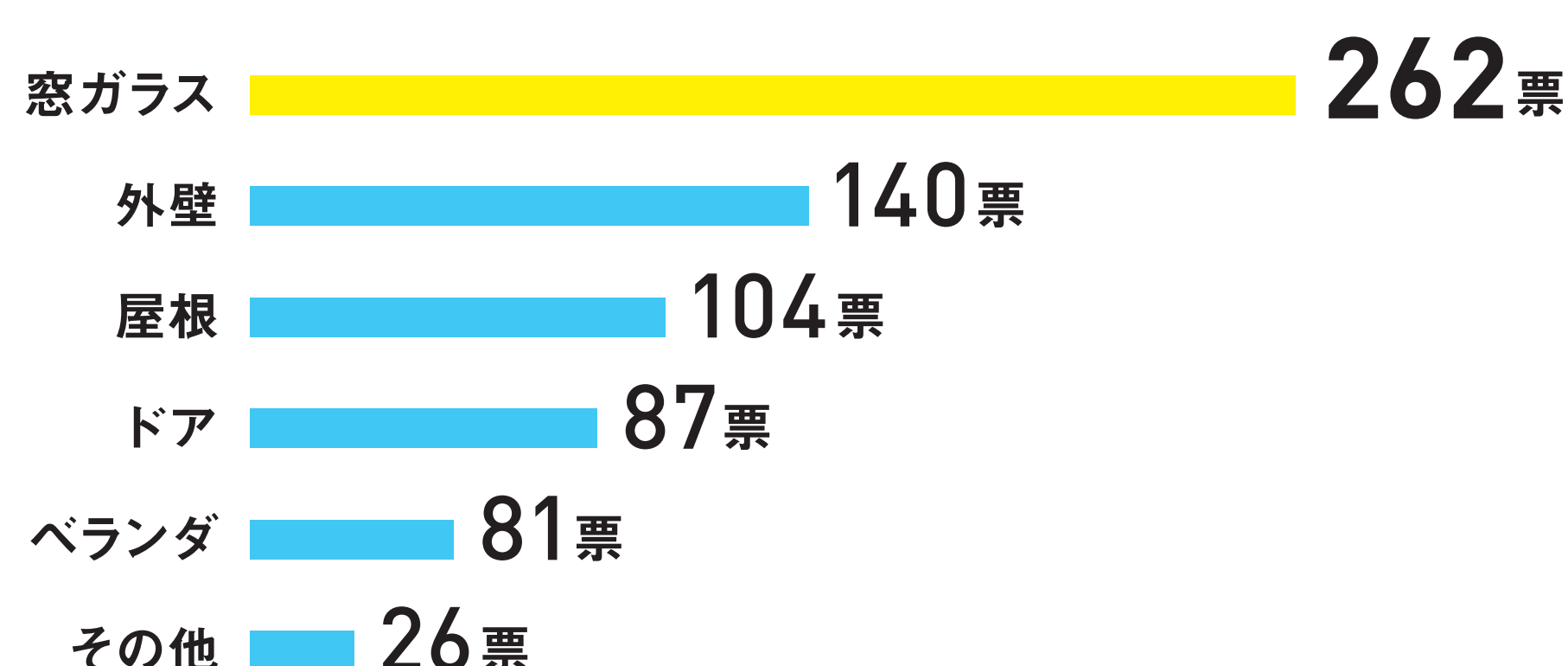


▶ 防災対策意識の実態は…

約6割の人が自宅の防災性能を理解していなかった。

自宅の防災性能への理解度について、「よく知っている」と答えた人はわずか10.8%でした。一方、「何も知らない」と答えた人は63.3%にのぼり、約6割が自宅の防災性能をについて理解していないことが明らかになりました。また、部分的な理解を示す回答をした人もいましたが、防災対策意識の実態として自宅の防災性能の理解が全体的に低い結果が出ました。

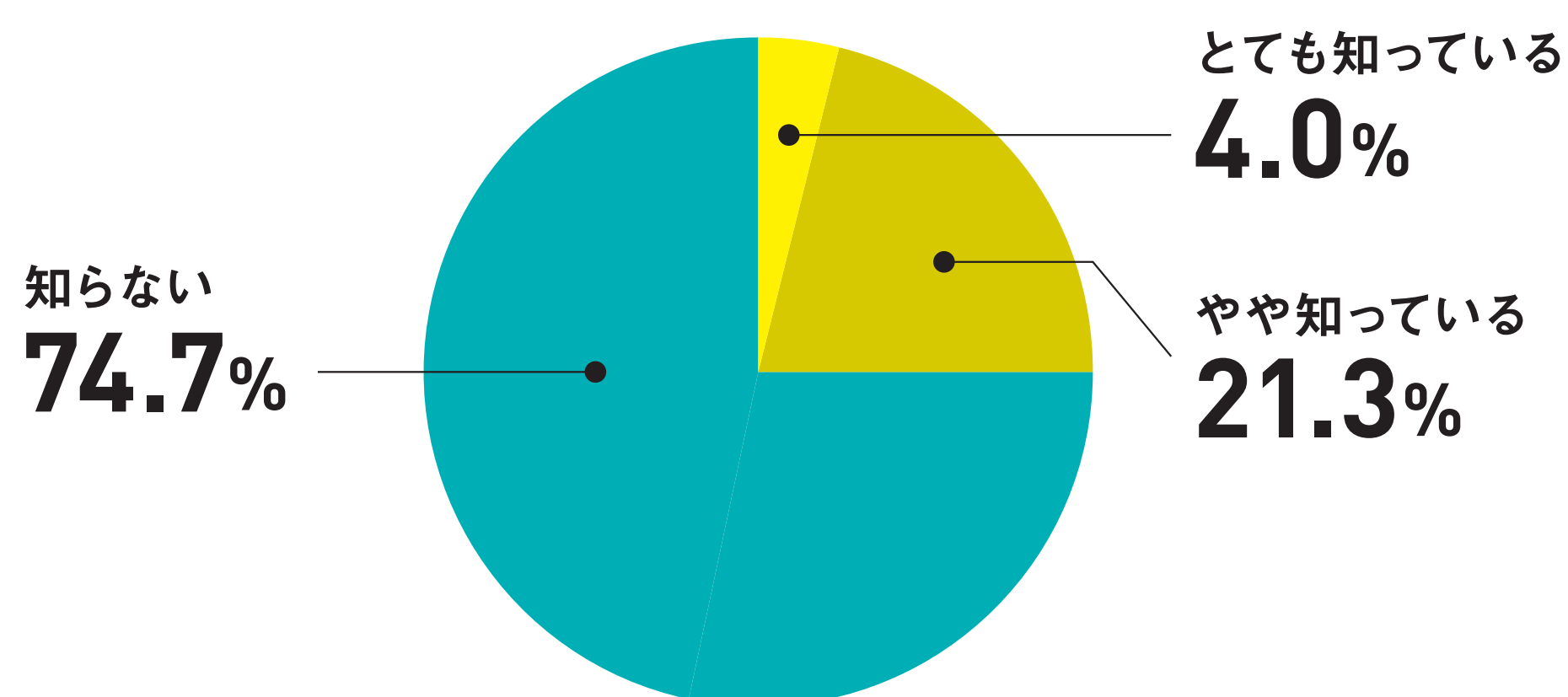
Q5 あなたがご自宅の防災性能を強化したい箇所はどこですか？（複数回答）



▶ 今できる自宅の防災性能を強化したい箇所の第1位は窓ガラス。

自宅の防災性能についての質問では、強化したい箇所の第1位は「窓ガラス」の65.5%で、2位以下と大きく差をつける結果となりました。次いで第2位「外壁」35%、第3位「屋根」26%、第4位「ドア」21.8%、第5位「ベランダ」、「その他」6.5%という結果となり、今から出来る自宅対策としては出入り口や壊れやすい箇所への危機感から対策強化が意識されています。

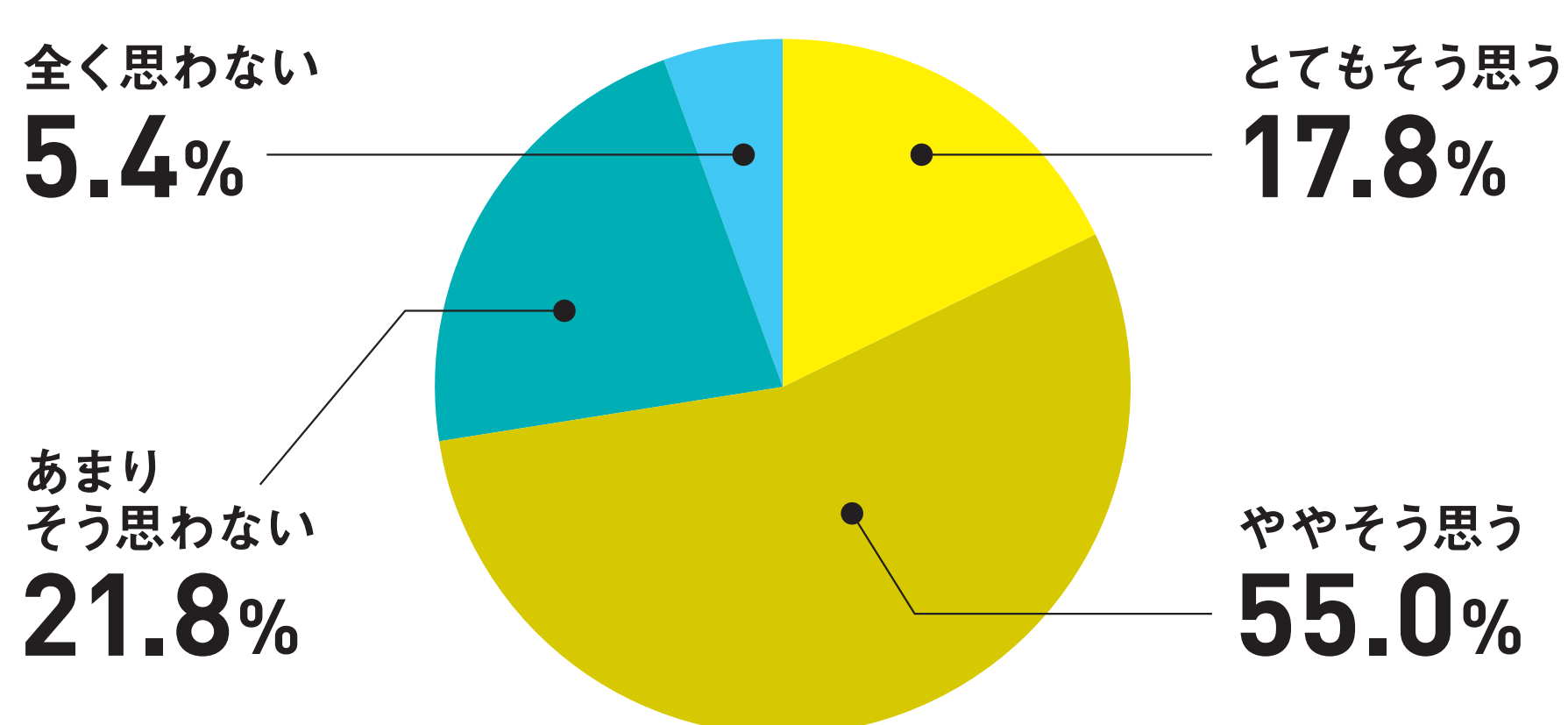
Q6 防災安全合わせガラスを知っていますか？



▶ まだまだ知られていない「防災安全合わせガラス」。

そもそも防災安全合わせガラスを知っているかどうか調査したところ、「知っている」25.3%、「知らない」74.7%という結果も得ることができました。学校の体育館でも一部採用が始まっています。子供たちを守ったり、避難所として利用される際に避難した人たちの安全を守るために、防災安全合わせガラスをもっと広く知っていただく努力を重ねてまいります。

Q7 『防災安全合わせガラス』を取り付けたいと思いますか？



▶ 「防災安全合わせガラス」の導入に前向きな意見多数。

「防災安全合わせガラス」を導入したいと思うかについては、「とてもそう思う」17.8%、「ややそう思う」55%で導入に前向きな意見が7割以上という結果となりました。防災安全合わせガラスには、①飛来物が当たっても貫通しにくい、②割れても破片がほとんど飛散しない、③家具や人体が衝突しても破片が散乱しない、などの災害時などに発生する危険を軽減する役割があるほか、④防犯性能が得られる、⑤紫外線をほぼ100%カットという特徴があります。

防災対策や防犯対策に役立つ「防災安全合わせガラス」

「防災安全合わせガラス」とは、2枚の板ガラスの間に合成樹脂の中間膜をはさみ、熱と圧力で圧着した合わせガラスです。2枚のガラスが強力に接合されているので、対貫通性に優れ、万一破損しても破片がほとんど飛び散らず、台風、地震、人体のガラス面への衝突事故に対して高い安全性を発揮します。また、貫通しづらい特徴により、防犯対策としても有効なガラスです。